

# 概要

人口動態統計は、出生、死亡、死産、婚姻、離婚の5つの事象を、市町に届け出された各届書から調査、把握したもので、人口集団の動向を知る上で重要な役割を果たしています。平成20年中における本県の人口動態の概況は、次のとおりです。

(表1) 人口動態の概況

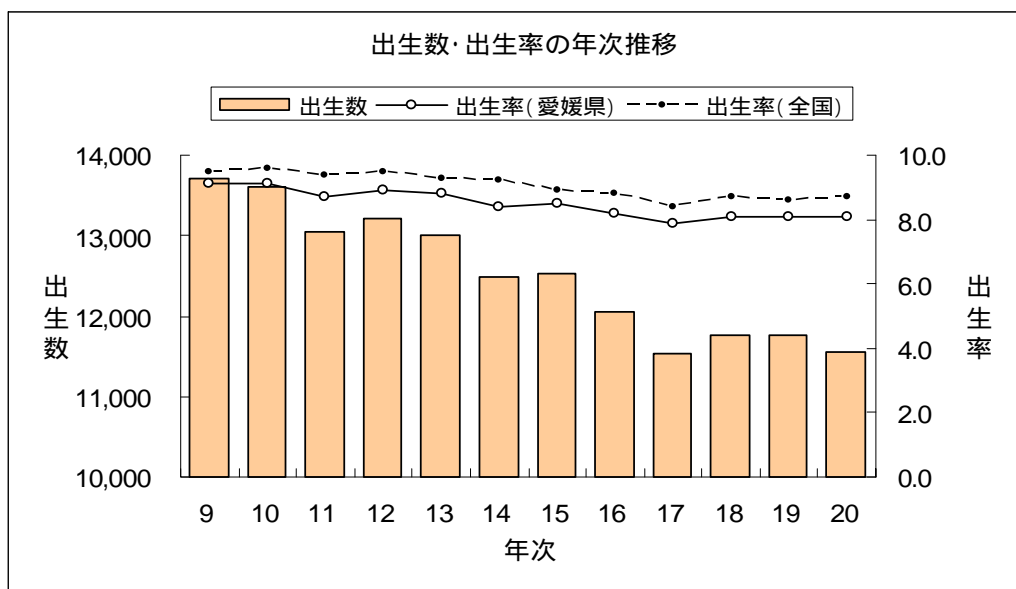
区分	実数			率			全国(20年)	
	平成20年	平成19年	差引	平成20年	平成19年	差引	実数	率
出生	11,561	11,753	192	8.1	8.1	-	1,091,156	8.7
死亡	15,777	15,427	350	11.0	10.7	0.3	1,142,407	9.1
乳児死亡	16	25	9	1.4	2.1	0.7	2,798	2.6
新生児死亡	7	13	6	0.6	1.1	0.5	1,331	1.2
自然増減	4,216	3,674	542	2.9	2.5	0.4	51,251	0.4
死産	341	384	43	28.7	31.6	2.9	28,177	25.2
自然死産	138	144	6	11.6	11.9	0.3	12,625	11.3
人工死産	203	240	37	17.1	19.8	2.7	15,552	13.9
周産期死亡	45	62	17	3.9	5.3	1.4	4,720	4.3
妊娠満22週以後の死産	41	53	12	3.5	4.5	1.0	3,751	3.4
早期新生児死亡	4	9	5	0.3	0.8	0.5	969	0.9
婚姻	7,175	7,302	127	5.0	5.1	0.1	726,106	5.8
離婚	2,816	2,898	82	1.96	2.01	0.05	251,136	1.99

	愛媛県		全国	
	平成20年	平成19年	平成20年	平成19年
合計特殊出生率	1.40	1.40	1.37	1.34

注1) 率: 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚は人口千対, 乳児・新生児・早期新生児死亡は出生千対, 死産は出産(出生 + 死産)千対, 周産期死亡・妊娠満22週以後の死産は出産(出生 + 妊娠満22週以後の死産)千対である。  
 注2) 周産期死亡数は 妊娠満22週以後の死産に生後1週未満の早期新生児死亡を加えたものである。

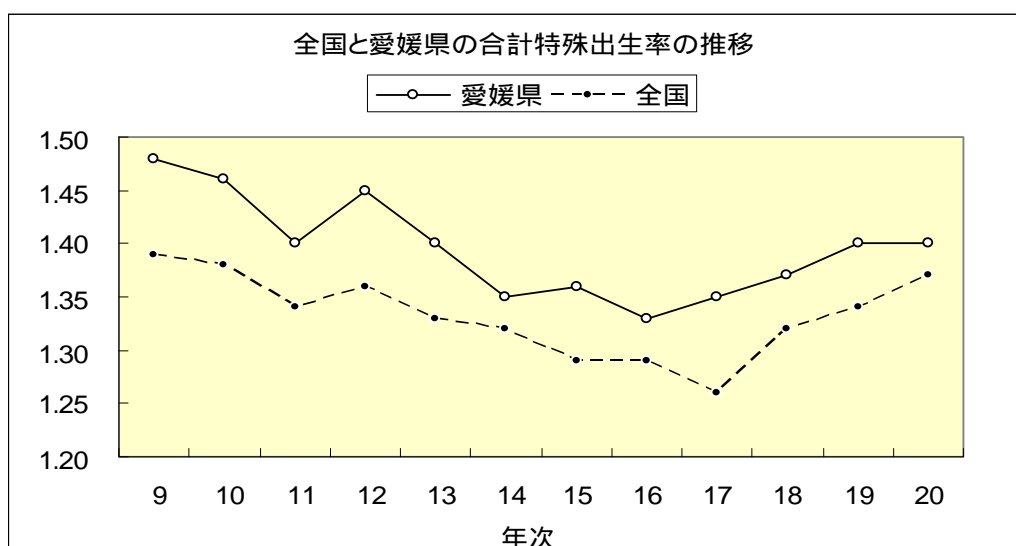
# 1 出生

出生数は11,561人で前年に比べて192人減少し、出生率(人口千対)は8.1で前年と同率でした。



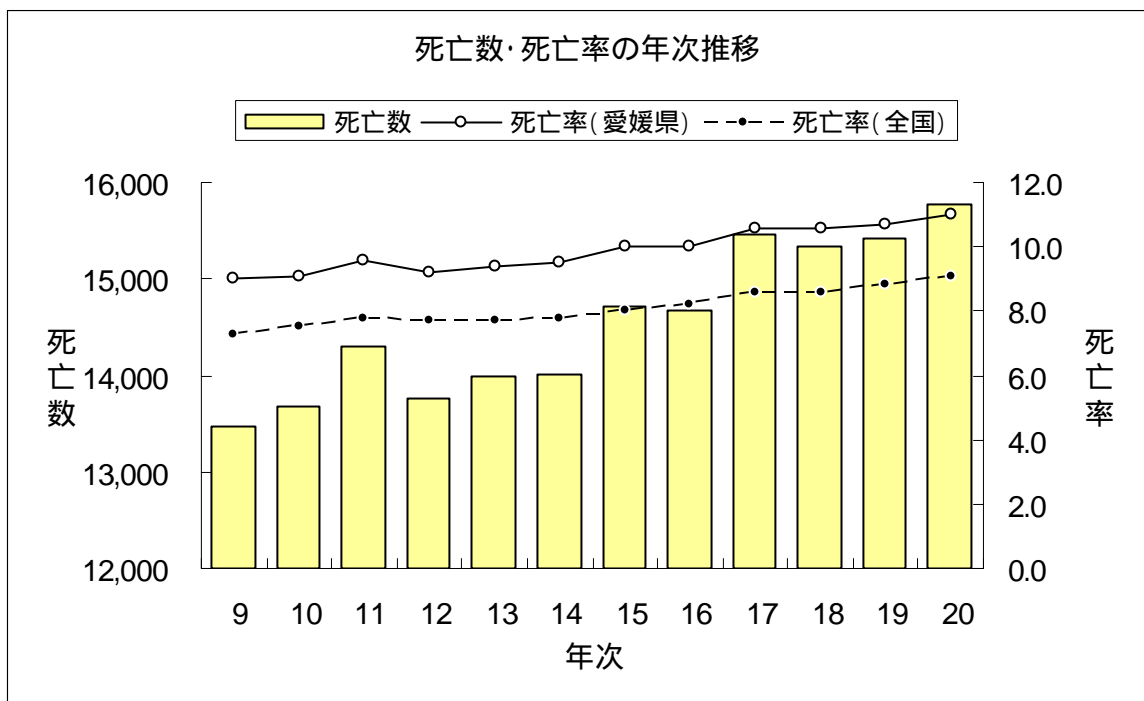
これは都道府県別の上位33番目で、全国平均に比べ0.6ポイント低く、四国内では香川県について2番目に高い率でした。

今後も平成20年と同じ率で子供が産まれると仮定すると、一人の女性が生涯に産む子供の数の平均(平成20年の合計特殊出生率)は1.40人で、前年と同率でした。



## 2 死亡

平成20年中の死亡数は15,777人で、前年に比べて350人増加し、死亡率(人口千対)は11.0で前年より0.3ポイント上回りました。



これは都道府県別の上位12番目で、全国平均に比べて1.9ポイント高く、四国内では高知県、徳島県についで3番目に高い率でした。

10位までの死因順位を年次別にみると、表2のとおりです。県内の上位10位までの年次別死因順位は表3のとおりで、上位3死因と死亡率(人口10万対)は、

- |   |       |                |
|---|-------|----------------|
| 1 | 悪性新生物 | 294.7(全国272.3) |
| 2 | 心疾患   | 210.0(全国144.4) |
| 3 | 脳血管疾患 | 117.5(全国100.9) |

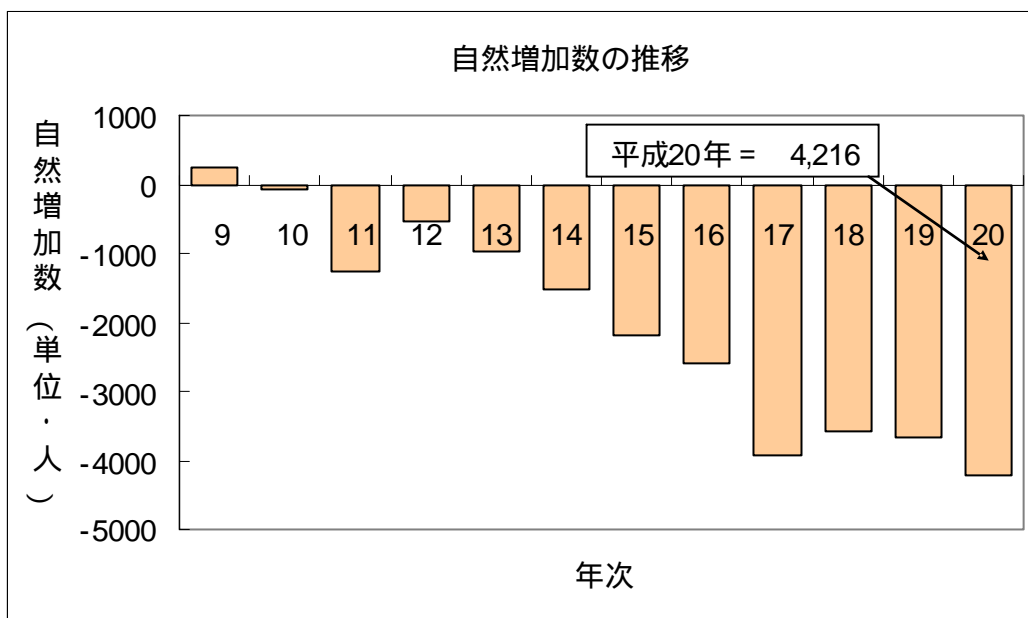
でした。

なお、「悪性新生物」による死亡を部位別、年次別にみると表4のとおりです。

### 3 自然増加

平成20年中の自然増加数はマイナス4,216となり、前年に比べ542人減となりました。

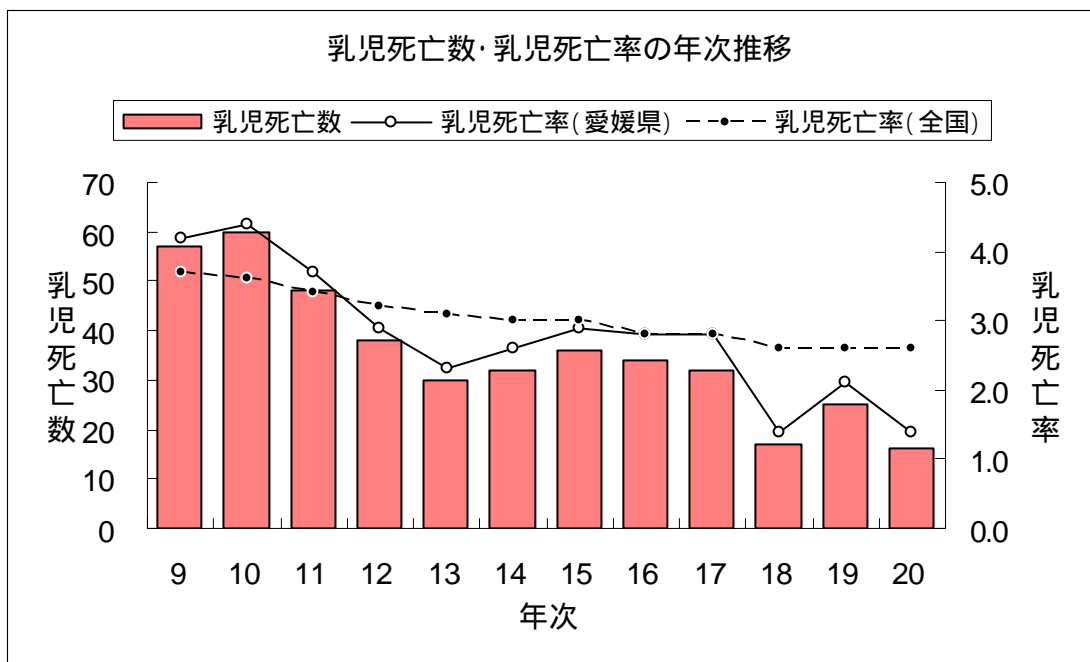
自然増加率はマイナス2.9で、前年より0.4ポイント下回りました。



これは全国平均に比べて、2.5ポイント低く、四国内では香川県について2番目に高い率でした。

## 4 乳児死亡

平成20年中の乳児死亡は16人で、前年に比べて9人減少し、乳児死亡率(出生千対)は1.4で、前年より0.7ポイント下回りました。

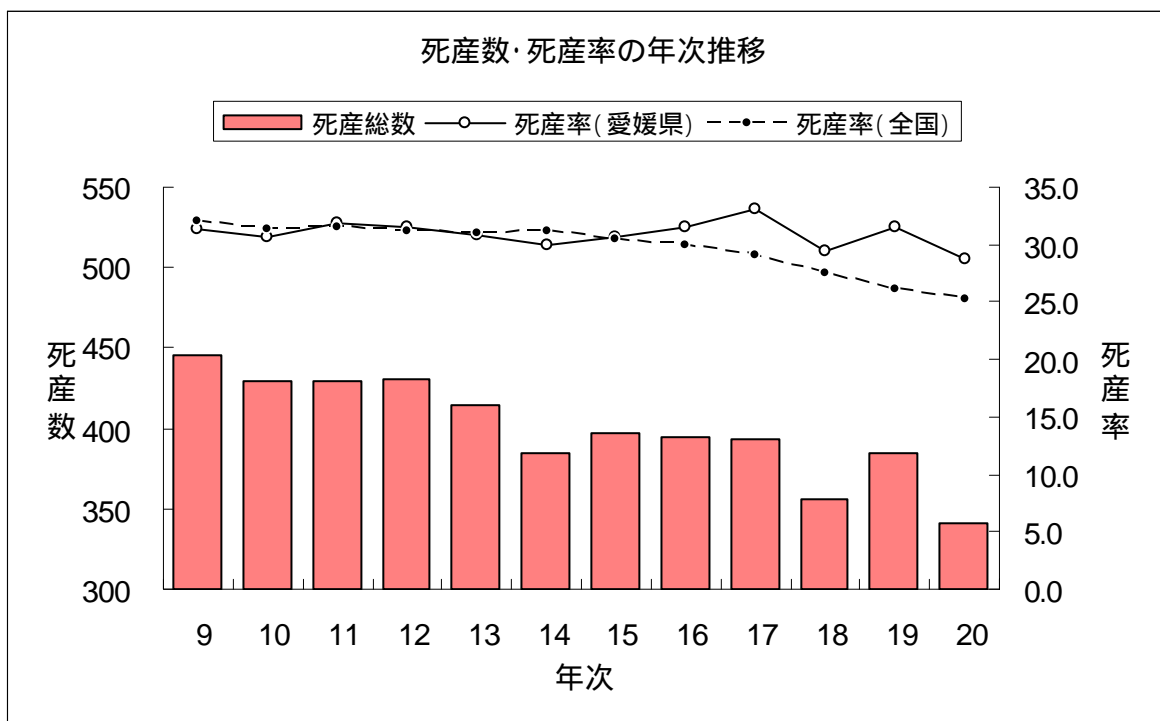


これは全国平均より1.2ポイント低く、四国内では最も低い率でした。

## 5 死産

死産とは妊娠満12週(第4月)以後の死児の出産をいい、自然死産と人工死産に区分されます。

平成20年中の死産は341胎で、前年から43胎の減少となり、死産率(出産千対)は前年を2.9ポイント下回る28.7でした。

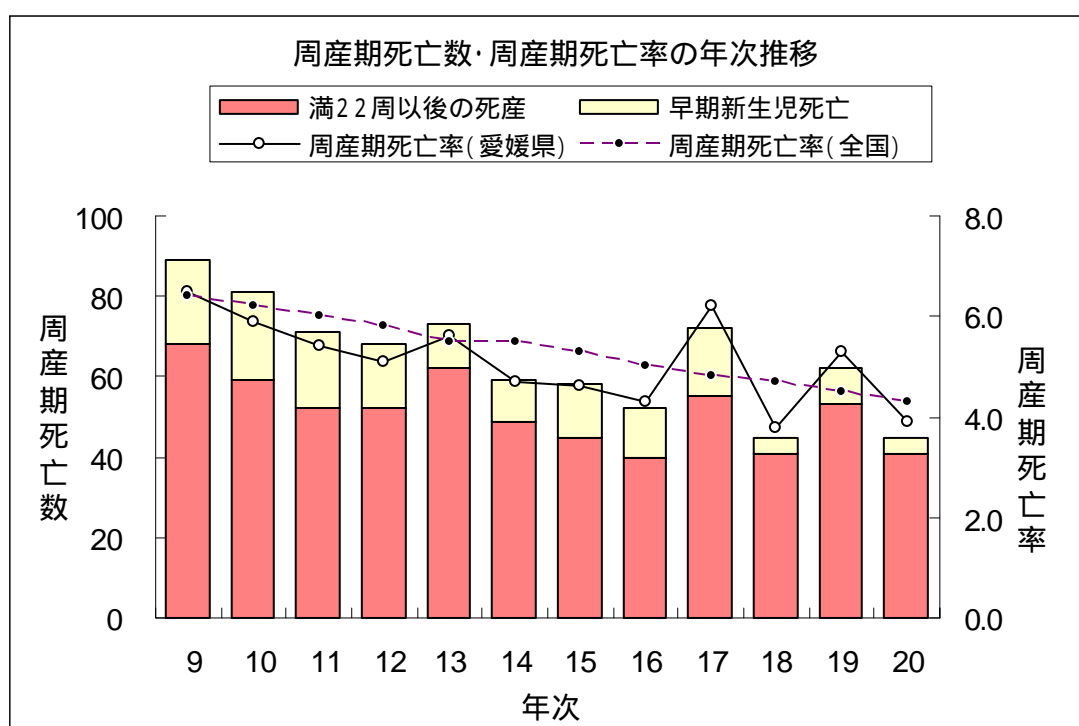


これは全国平均に比べ3.5ポイント高く、四国内では高知県について2番目に高い率でした。

## 6 周産期死亡

妊娠満22週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせて周産期死亡と  
いいます。

平成20年中の周産期死亡数は、妊娠満22週以後の死産41胎、早期新生児死亡4  
人となっています。前年に比べて、前者は12胎、後者は5人減少しました。総数では4  
5件で、前年に比べ17件減少しました。



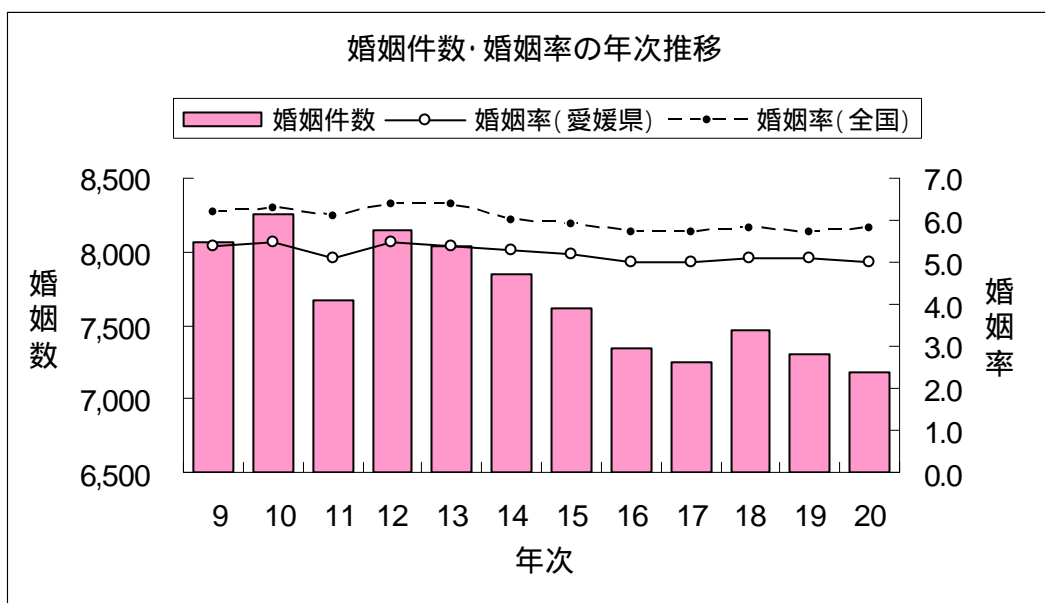
周産期死亡率(出産千対)は、妊娠満22週以後の死産3.5、早期新生児死亡0.3で、  
全体では3.9となっており、前年に比べて1.4ポイント減少しました。

全体の周産期死亡率3.9は、全国平均に比べ0.4ポイント低く、四国内では高知県  
徳島県についで3番目に高い率でした。

なお、平成7年からは、「国際疾病障害死因分類」(ICD)の改訂に伴い、周産期死亡  
における後期死産の定義も「妊娠満28週以降」から「同22週以降」の死産へと変更さ  
れました。本書では、平成6年以前にも遡って満22週以降で計算し直した数値を用い  
ています。

## 7 婚姻

平成20年中の婚姻件数は7,175件で、前年に比べて127件減少し、婚姻率(人口千対)は5.0で前年より0.1ポイント下回りました。



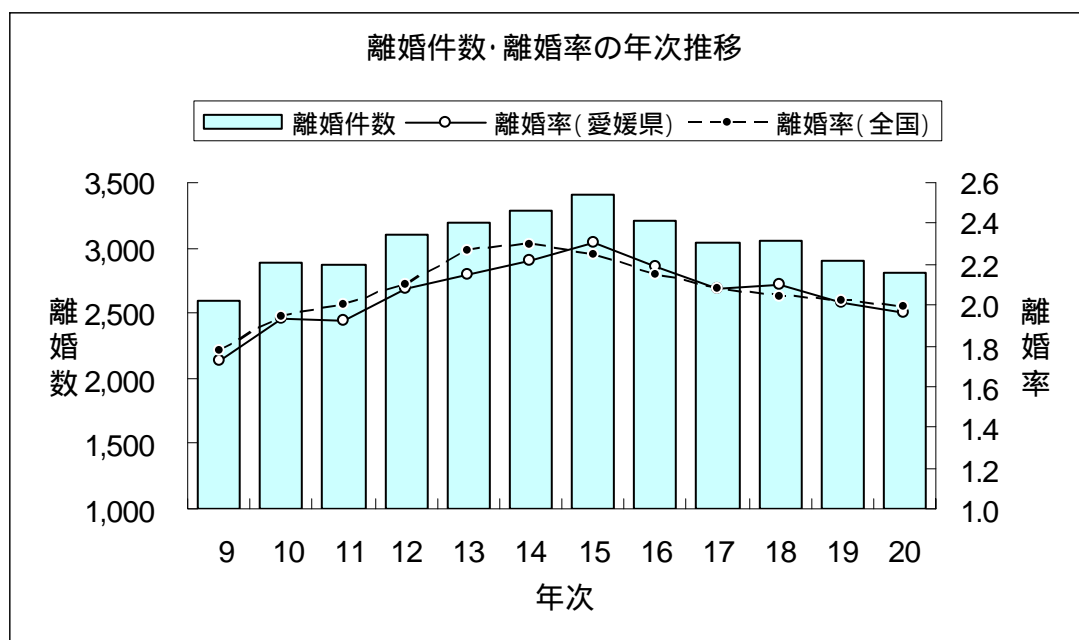
これは全国平均に比べ0.8ポイント低く、四国内では香川県について2番目に高い率でした。

なお、初婚者の平均婚姻年齢は、夫29.4歳(前年29.0歳)、妻27.7歳(前年27.5歳)となっています。全国では、初婚者の平均婚姻年齢は夫30.2歳、妻28.5歳でした。



## 8 離婚

平成20年中の離婚件数は2,816件で、前年に比べて82件減少し、離婚率(人口千対)は1.96で前年を0.05ポイント下回りました。



これは全国平均より0.03ポイント低く、四国内では高知県に次いで2番目に高い率でした。